

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)パール福岡建替計画 新築工事	階数	地上19F
建設地	福岡県福岡市中央区渡辺通2丁目4号13番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	355 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2020年9月25日
敷地面積	1,497 m <sup>2</sup>	作成者	リーメック 高岡 武生
建築面積	860 m <sup>2</sup>	確認日	2020年9月25日
延床面積	12,601 m <sup>2</sup>	確認者	リーメック 山下 豪



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.2</b> ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q のスコア = 2.9</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア= 3.4</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア= 3.1</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア= 2.1</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア= 3.5</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア= 3.4</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア= 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>良好な都市環境を形成し賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。高い外皮性能を計画し省エネルギーで快適な室内環境を整えるよう努めた。</p>		<p><b>その他</b></p> <p>特になし。</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>ほぼ全面にF☆☆☆☆の建材を使用し、室内空気環境に配慮している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>品確法劣化等級3相当とし、設備は耐用年数の長い配管を採用し更新の間隔を長くするよう配慮した。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>敷地内には適切に緑化を施すことで地表面温度上昇を極力抑える計画とした。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>品確法の断熱等性能等級における等級4相当の断熱材を確保することで、外皮の熱負荷抑制を考慮した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっており、部材の再利用の推進に努めている。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>広告物照明等を設置しないことで周辺環境に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される